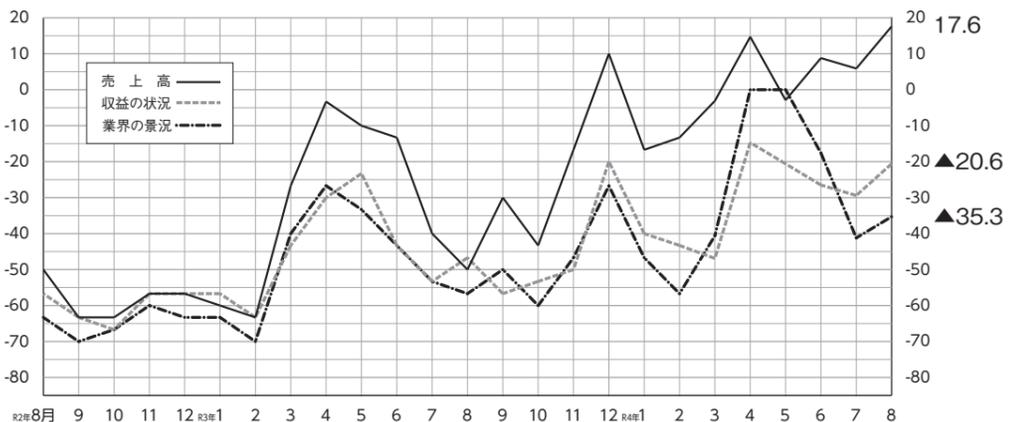




DI(景気動向指数)

## 情報連絡員報告



### 業界の状況

- …好転
- …やや好転
- …不変
- …やや悪化
- …悪化

	<b>旅館・ホテル</b>	7月頃までは回復傾向にあったが、8月より下降の見通し。9月以降は団体ツアーのキャンセルが増加しており、秋の旅行シーズンの受注予想は芳しくない。エネルギーや原材料費のコストアップは下落する見込が立たず、最低賃金の上昇、人手不足など労働力確保の課題も残ったままである。
--	---------------	--

	<b>食品団地</b>	8月商況は、昨年と比べると好転した。県内市況は、よさこい祭りや帰省・観光客がともに増加したようである。エネルギー価格の高騰は、値上げでカバーする動きが活発になってきた。原油価格からの電気代の上昇が心配される。
	<b>酒類製造</b>	徐々に出荷回復の兆しであるが、値上げ前の仮需の数字も一部か?また、新型コロナウイルスの影響で飲酒の習慣性に変化が出てくると思われる。
	<b>コンクリート製品</b>	出荷数量は前年同月よりやや増加。令和4年度の災害復旧工事を含む公共工事の需要は減少はしているものの、少しではあるが昨年度の繰越工事の出荷もあり、令和4年8月分は前年同月よりやや増加した。
	<b>電気機械器具小売</b>	8月度は金額ベースで前年比106%。エアコン 前年比107.3%、冷蔵庫 103%、大画面テレビ 前年比88%。
	<b>商店街(四万十市)</b>	少しずつイベント等の予定を入れようと準備をしている。地元のお客様は食事のお持ち帰り注文がまだ多いのが現状。居酒屋等から二次会の店へと人が流れていないようだ。

	<b>テントシート</b>	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も活気が戻りつつあるがまだまだ、厳しい状況。
	<b>木製品素材生産</b>	全体的に値下がり傾向となっているが、スギ価格は大きな変動はなく、ヒノキは値下がりしてきている状況。しかし、スギ・ヒノキとも引き合いは良好。出材状況は前月と変わらず順調であるが、ヒノキは少しダブっている。新型コロナウイルスがまた増加してきており、コロナによる木材価格への影響は少ないと思われるが、先行きは心配。
	<b>製材</b>	引き続き荷動きは低調であるとの声が多かった。
	<b>製紙(手すき和紙)</b>	まだまだ新型コロナウイルスが蔓延し、それに加え、原材料の高騰・円安と何一ついい状況ではなく、売上もまだまだ鈍い状態が続いており、今後も不安材料が山積み。今後も新型コロナウイルス・原材料高騰・円安といつまで続くのか見当もつかない。
	<b>船舶製造</b>	夏季休業明けに(新型コロナウイルスの)陽性者や濃厚接触者が複数出たため、対応が必要だった。
	<b>珊瑚装飾品製造</b>	8月の取引額は前年同月比170%となったが、コロナ禍以前の水準までの回復には至っていない。
	<b>中古自動車小売</b>	高年式車両の販売が好調。程度の良い車両であれば高くても売れている。軽自動車、ミニバン、ワンボックス中心の販売が多い。例年、今から販売台数が伸びるので、相場高騰の中、思案をしながら在庫確保の準備をしている。
	<b>商店街(高知市)</b>	中央公園地下駐車場 売上前年比:120.7%、利用台数前年比:110.2%。よさこい祭りは開催されたが、通年のような賑わいには至らなかった。感染拡大に歯止めがかからない状況で、重苦しい状態が続く。
	<b>IT事業</b>	特に大きな変化はなし。ただし円安が一段と進んだ結果、海外製のサーバー利用料などが値上げ傾向にあり、今後コスト増が懸念される。

	<b>一般土木建築工事</b>	令和4年8月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比439.8%、前年同月比89.5%。令和4年4月から令和4年8月累計においては前年累計対比87.7%。8月の工事請負金額は前年同月比で100.5%、前年対比累計金額では77.5%。令和4年8月末時点の前年対比累計請負金額は、国:77.9%、高知県:同累計61.1%、市町村:同累計99.9%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に落ち込んでいるが、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事は継続している。生コンリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを当組合としてもできることを行っていく。
--	-----------------	---

	<b>製紙(家庭紙)</b>	人流の回復で消費はやや上向きであるが、原材料・エネルギー・その他の高騰で、利益率が低下しており、厳しい状況が続く県内家庭紙業界である。
	<b>印刷</b>	売上については若干上昇、設備稼働度も微増。県内需要は昨年同様、県外需要はイベント関連等が徐々に回復し全体を押し上げつつある。しかしコロナ以前比較ではまだまだの数字。又原材料等の値上げが再度予定されており収益状況は厳しくなると思われる。
	<b>生コンクリート製造</b>	8月単月の出荷数量は、対前年比89.5%、4月からの累計出荷量は87.7%で地区的には中部、高幡、幡多が若干増加傾向にあるが、中・東部地区での減少幅が大きい傾向。生コン価格は、10月からの原材料価格の値上がりが予定されており、今後の検討課題。
	<b>刃物製造</b>	当月は売上は落ちてしまったが、原因として商品の付属品の入荷が遅れ出荷することができなかった。今後の課題である。付属品等の値上がりも痛いところである。また、新型コロナウイルスの感染者が増え、今日は土、日の営業は休むことにした。今後も心配である。
	<b>機械団地</b>	団地内は概ね横ばいの業況である。なかでも、原材料の価格上昇分を売価に転嫁できたところとそうでない事業所で明暗は分かれている。新型コロナウイルスの影響で、従業員の自宅待機者増加により、作業人員を確保できない。また、仕入納期の遅れにより、現場作業の目途が立たない。今後、人員不足による生産調整が懸念される。
	<b>卸団地</b>	・景気回復は感じられない。・コロナ禍が続き、景気が悪化している。・仕入品値上げが続き、十分転嫁できない状況である。・ガソリン代、電気代等値上げが続いている。・例年は、コロナ対策融資の返済が始まるが、苦しくなるのでは。・お金の動きは、中山間のホテルや観光地への食材は動いていたが、高知市中心の夕食は全く動かない。
	<b>青果卸売</b>	県内販売は前年度並みだが、県外出荷が減少した模様である。販売価格の上昇の為もある。新型コロナウイルスの影響に関しては、よさこい、火花等により感染者数の急上昇のため業務系は壊滅状態である。
	<b>生鮮魚介卸売</b>	カツオの入荷は順調。マグロ類の入荷がかなり少なかった。従業員に新型コロナウイルスが出て、大変な店もある。
	<b>各種小売(土佐市)</b>	8月も少しは人の動きが見えたものの、状況は変わらず、土佐市の2大祭りも中止だったので、活気もなく寂しい夏となった。
	<b>ガソリンスタンド</b>	政府による燃料価格激変緩和と事業発動の補助金額は8月末で1リットル当たり32.4円となり、また、ロシアのウクライナ侵攻も継続しており、8月は新型コロナウイルス感染拡大が進行しているが今のところ規制がないため、経済は少し動いているようである。原油価格は下落したが、値下がり分を補助金のマイナスでほとんど市況は下がらず、スタンドはお客からのクレームの対応に追われている。再びの感染拡大が規制はないため、以前ほどの落ち込みはないが感染者の数が多く、今後再び規制があるのか不安である。

	<b>商店街(安芸市)</b>	8月20日(土)に開催予定だった、第15回全国「商い甲子園」大会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止となった。今後、感染者数が減少してきているので、客数が戻ってくることを願う。
	<b>飲食店</b>	月前半はコロナ禍以前並みの集客だったが後半はコロナ感染者数が激増し集客は激減、結局前月と同等の売上。売上が落ち込んだ前年同月に比べると好転しているが、例年(コロナ禍以前)との比較は7割程度。業態により売り上げに大きな差がある。県外客は増加、県内客は減少。光熱費や仕入れ価格の高騰がさらに拡大、コロナ感染者数も激増し集客は減少。マイナス要因には事欠かない。新型コロナウイルスの感染拡大による集客減、売上の低下が起こっており、今後は業界(県内事業主)の規模が縮小する恐れがある。

	<b>旅行業</b>	組合クーポン前年度月対比85%、全旅クーポンを加味して154%。雇用調整助成金制度が11月まで延長されたが、現状で制度廃止になった場合、旅行業界の雇用維持が厳しくなる見通し。秋の修学旅行は、8月の感染者増加により、盆明けに修学旅行の延期、キャンセル対応に追われたケースもある。売上自体は前年を上回っても、収益確保には程遠く見通しは厳しい。
	<b>クリーニング</b>	回復傾向にあったクリーニング需要は停滞してきており、先行き不透明。経費負担増で利益は悪化、秋には価格改定する業者が一段と増える傾向にある。新型コロナウイルスの影響でリモートワークによる仕事着減少、観光による外出着増も回復限定的となっているが、今後もリモートワークが定着、外出を控える行動変容による需要減少が見込まれる。

	<b>電気工事</b>	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比136.1%となった。高知中央・香長・須崎地区の伸びが大きい。
	<b>一般貨物自動車運送</b>	物流は緩やかに回復しているように見えるがまだまだ鈍いといえる。燃料価格も若干値下げとはなったが、まだまだ高値で推移しており経営を圧迫している。新型コロナウイルス感染拡大の影響としては、荷動きが悪く売上が伸びない。荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫することが懸念される。

	<b>建具</b>	新型コロナウイルス感染拡大の影響だと思われるが、民間の仕事が激減している。今までは、若い人がコロナにかかっていたが、最近は組合員(社長)及び40~50代の人もコロナにかかって、生産がストップしているところもある。今後、コロナがますます広がって、現場及び建具屋の工場もストップするところが増えてきそう。
	<b>タクシー</b>	実働1日1車当たりの前年同月比営業収入:116.3%、輸送回数:113.3%、実働率は51.1%。ますます運転者不足が深刻化し、新規運転者になるための法定講習性が0人となった。退職者は毎月5人くらいいるのに…このままでいくと労務倒産を危惧している業界である。新型コロナウイルスの影響で夜間需要は減少している。